

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

選択・論述・記述・計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

正しい文章や誤っている文章を選択させる問題が出題された。

その他トピックス

地質分野の出題がなかった。

指定語を与える論述問題は減少した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野 (テーマ)	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 論述 記述 計算	宇宙	地学	問1は、全て正解して得点しておきたい。 問2は、「定番」の論述であるが、変化量の数値には注意して答えること。 問4は、(1)が答えられなくても(2)には挑み得点してほしい。	標準
II	計算 選択 論述 記述	エネルギー収支 地球大気	地学	問3や問7(1)は、解答欄の大きさを意識して簡潔な論述で答えるように。 問6は、地球の公転周期365日の間に地球が366回自転することに気付けると立式できるだろう。	やや易
III	選択 記述 論述 計算	プレートテクト ニクス	地学	問1～問3は、確実に得点したい。 問4と問5(2)は、手短かにまとめた文章表現を心がけるように。 問7は、簡単な座標を自分で描いて解くとよいだろう。	やや易
IV	記述 選択 論述 計算	日本の地史 火成岩 変成作用	地学	問2は、細かな知識が問われている。消去法で選ぶほうがよいかもかもしれない。 問6は、文章にするのが難しい。何について答えるべきか把握してから、文章化に取り組もう。(2)は、変成岩が苦鉄質とされていることにも注意が必要である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

京都大学は、論述問題の比率が極めて高い。また、計算問題も多く出題される。解答用紙の解答欄の大きさを見て、くじけそうになるかもしれない。しかし、解答欄を埋めることを目標とするべきではなく、自分が十分と思う内容を簡潔にまとめることこそ肝要である。また、問題文をよく読み、何を答えるべきかを把握することも重要である。論述や計算の対策に十分な時間をかけるべきであり、時間配分にも注意を払うことが必要である。また、様々な出題形式の問題に備えるためにも、教科書に十分目を通すこと。そして、過去問演習を繰り返すべきである。